

No. 89  
**公民館だより**  
 平成5年4月  
 宮津市字由良  
 由良の里センター内  
 由良地区公民館

# 趣味

館長 小室 哲 寛

良識ある社会人としての資質を号を重ねて述べて来たが、これをもって一先づ終わることとして、今回は「良い趣味をもつ人」について考えてみたいと思うのである。

良い趣味をもつことをここでとり上げたのは、高齢化社会の中にあっての生甲斐とか、自己実現の喜びに通ずるものであり、生涯学習の根元となるものであるが、熟年者も若い人々も各自が良い趣味を持ち、豊かな人間性を培い、人生を夫々楽しく生きてほしいと希うからである。

わが国では、一般に今まで趣味についての理解が少なかったのではあるが、昨今趣味は余暇利用の第一に挙げられ見直されつつあることは喜ばしいことである。西洋では古くから趣味についての考え方が非常に進んでおり「趣味なき人生は悲惨である」とか「趣味は魂の文学的良心である」とかの諺もあるほどである。

百科事典で見ると、趣味は、(1)美学的観点よりいえば美的対象を鑑賞し、批判する能力をいい、このときは英語のテ-

スト (Taste) があてられる。良い趣味というのはこの意味であり、物ごとの美醜を適切に鑑別する能力を称している。(2)心理的には人々が感興を催し興味をもってあることにあたる。

この様に英語では趣味は余技、嗜好、道楽等を意味するホビー (Hobby) にあたる。

この様に英語では趣味は余技、嗜好、道楽等を意味するホビー (Hobby) にあたる。この様に英語では趣味は余技、嗜好、道楽等を意味するホビー (Hobby) にあたる。

また、十八世紀のドイツの哲人カントは趣味についての学問的論説を発表している程であり、西洋人の趣味についての奥行き

の深さや、その考え方の真剣さが偲ばれるものである。わが国においては趣味についての理解がもう一つ不明確である。スポーツ・映画・演劇・音楽・舞踊・活花・お茶・謡曲・

絵画・手芸・魚釣り・園芸・囲碁・読書など、仕事以外のものは何でもひとまとめにして取り扱うのが一般である。

こゝでもう一度百科事典を用すれば、

趣味は、その人の本来の仕事とは別の副次的なものであり、実利実益を目的にしないで、自分の心の慰みや、生活の楽しみのためにするものである。それゆえに、いかなる趣味をえらぶかには広い個人差がみられ、その趣味のいかんはその人の人柄をうかがうことが出来るものである。

とある。そこで申し上げたいのは、自分で一生の趣味とするものを選ぶのであるから、出来る限りよい趣味を選ぶより心掛けないものである。

趣味は自分の最も興味のあるもので、しかも囲りから束縛されない余暇を利用するものであるから、しばしば時間の経つのも忘れ没頭することがある。そ

れ故、趣味のうち多くのものは、何十年も年季を入れ続ける場合もあり、又生涯をかけた努力によつて始めて或境地にまで到達し得るものであるからこそ、それに打ち込むだけの価値があるともいえるものである。又「一芸に秀でる者はすべてに通ず」で、たゞ一筋に一つの趣味に打ち込むだけのことであつても、他の趣味の領域にも通じる幅広い人間形成の出来た人を見聞きすることもあつた。また趣味には例えば陶芸・絵画・芸能の様に或境地までの到達が容易でないため、無限の努力と能力の限りの挑戦とが必要なものもある。

とにかく趣味は、その人の人間性の向上に大いに効用もあり、その人の自己実現の喜びと、生甲斐を感じるこの出来る幸せな体験の場であり、又貴重な試練の場ともなり得るものであることを銘すべきである。

戦後レクレーションなる言葉が輸入され、趣味についての近

代的な意義が付与された。レクレーションとは「再び創造する」ということで、気分を転換し疲労を回復し、あすへの活動の英気を養うことであることは周知の通りである。

近年各職場における仕事はますます複雑で多忙になる反面、心がいつも空虚な人々が増加している。精神の均衡が得られないことに起因するストレスを解消し、疎外されやすい人間性を取り戻すために、レクレーションは重要な役割を持っている。平素仕事の上で使わない頭脳の或部分や、身体の他の部分を使うことにより、回復を早め、気分爽快、又仕事にも熱が入ることとなる。その上に、進んで人間形成と鍛練のため趣味に積極的に取り組む、これに或時間没入出来る余暇利用が大切な時代となつて来ているのである。

ところで、高度成長時代に猛烈社員で立派に会社に貢献できた人が、定年退職となつた途端、

趣味もなく、為す事もなく、語る友もなく「濡れ落葉」とか「粗大ゴミ」と、うとまれるという話はよく聞くことであるが、実に笑えない悲惨なことである。

幸いに当地域ではこの点、何らかの方法で社会奉仕に、ゲートボールに、園芸農業にと有意義に励んでいる人が多いが、更に言うならば、自分が没頭して打込める趣味を皆の人が持つことができたなら、どれだけ生甲斐ができ、人生が明るく楽しいものになるか。又新鮮で心豊かな雰囲気溢れ、町全体がどれほど活気づいてくるかなどを夢みるものである。ここに生涯学習の意義があると思うのである。勿論生涯学習は、趣味とか同好の集りだけでは充分ではなくすべての人々が夫々の意図を持つて、生涯かけて継続的に学習をしていくことが本命である。つまり各人が、かけがえのない自分の人生を、より意識的に生きようということである。

それには先づ自分が知りたい勉強してみたいと思つていることについて勇氣をもつて果敢にチャレンジしてみることである。例えばそれが歴史であれ社会であれ又経済、文学、芸術、健康に関することであれ、何でも自分で選んだことに打込むことである。これが生涯学習の原点である。

それは既存の芸能サークル、スポーツサークルに入るのでもよく、又新しいサークルを始めのものもよいのであるが、皆趣味のサークルに入ると同じ発想である。即ち生涯学習は趣味の延長線上にあるのである。

そこで生涯学習にとつても趣味においても大切なことは、今まで述べて来た「意識」と、継続の「意志」であると思うものである。

すべからくよい趣味を持ち、人生を有意義に楽しく生きることを希うものである。

# 行事報告

主事 山下清 一

## ●市民綱引大会

第八回市民綱引き大会が、平成四年十二月八日、市民体育館に二十九チームが参加し盛大に開催されました。由良地区から、ジュニア女子チーム、一般女子、一般男子、一般混合の四チームが出場し力を競いました。

今大会の圧巻は、一般混合の部の由良と強豪上宮津チームの優勝をかけた死闘でした。常勝上宮津チームをあと一步二十センチメートルの窮地に追いこむ由良チームの敢闘で、大会場の目が一本の綱に集中し、喊声とどよめきが会場に充満して、他の試合が一時中断される大熱戦となりました。

最後は、日ごろから練習を重ねている上宮津チームの粘り強

い底力の前に由良チームは涙を吞みましたが、両チームの選手は立ち上れない程の疲労ぶりで、健闘を称える大拍手が大会場を包みました。

日ごろの練習の成果を遺憾なく発揮した強豪上宮津チームが、全五種目を制覇し大会を終了しました。選手の皆様ご苦労さまでした。

## ●新しい門出 成人式

「成人の日」の一月十五日、宮津市主催による記念式典が宮津会館で行われ、晴れやかに三百一人が出席し、新しい成人としての自覚を誓いました。徳田敏夫市長が「二十一世紀を見詰め、若い力で、物心豊かで明るい宮津をつくりあげてください」と

と激励しました。

新成人を代表して、栗田地区上司の小倉久和君が「大人としての自覚を持ち、行動や発言に責任を持ち、ふるさと宮津の発展に尽したい」と新しい世紀を担う若人の潑刺とした力強い決意に接し、頼もしく心強い感動を覚えました。

由良地区新成人名簿

(順不同敬称略)

- 瀬戸野修一・室沢 志麻・小室 恵
- 山田 照代・米田 裕美・山本めぐみ
- 岸田 豊・中西 一宏・中西 洋丈
- 山田 幸治・大森 寛嗣・川崎 加織
- 中西香央里・中西 香澄・吉成きみえ
- 中西 恵・山田 律子・山下 学
- 野村 雄治・藤本 長宗・野村なおみ
- 山下 弘美

## ●同和学習会

第八回同和学習会が、一月十七日(日)、由良の里センターで、婦人層を中心に、四十五名の参加を得て開催され熱心に学習を重ねました。

分科会では、「差別をなくす

のためのとりくみ」をテーマに、啓発映画「麻子の場合」を中心に、貴重な意見、発言を交しつゝ、熱心な学習が続きました。

日ごろ気づいていない私達の差別者としての醜い内面、気弱な行動等、認識を新たにしました。差別のない明るい社会を目指し学習を深め、更なる努力をみんなでも積み重ねることが大切だと思えます。学習会成功のためにご協力下さいました司会者、助言者、記録者の皆様に厚くお礼申し上げます。

## ●四部対抗バレーボール大会

男子一部、女子三部が優勝。一・二・三・のかけ声が、コート内の九人と応援観衆の声と一つになり、終日体育館は喊声と熱気に包まれ熱戦が展開されました。今年は各部とも若い力が台頭し、コート狭しとボールを追ひ、強打・ブロックと、目を見張る好プレーが連続しました。

男女とも一部対三部の熱戦が出色で、高度なプレーが再三演じられ大会が一層盛り上がりました。心地よい汗と和気藹々、盛

●男子の部

チーム	1	2	3	4	順位
1	/	(2-0) ○	(1-2) ×	(2-1) ○	(5-3) 1
2	(0-2) ×	/	(2-0) ○	(2-0) ○	(4-2) 2
3	(2-1) ○	(0-2) ×	/	(2-0) ○	(4-3) 3
4	(1-2) ×	(0-2) ×	(0-2) ×	/	(1-4) 4

○取得セットにより1部優勝

●四部対抗囲碁大会  
一年一度の四部対抗囲碁大会が二月七日(日)、各部の選り抜きの五名の精鋭二十名が一堂に会し、三百六十一路の盤上で日ごろの研鑽を競いました。名手・妙手と応酬の結果、三部、

会裏に大会を終了しました。ご協力下さった大会役員の皆様、選手のみなさま、有難うございました。

●女子の部

チーム	1	2	3	4	順位
1	/	(2-1) ○	(1-2) ×	(2-0) ○	(5-3) 2
2	(1-2) ×	/	(0-2) ×	(1-2) ×	(2-6) 4
3	(2-1) ○	(2-0) ○	/	(2-0) ○	(6-1) 1
4	(0-2) ×	(2-1) ○	(0-2) ×	/	(2-5) 3

四部の勝点が同数となる接戦となりました。抽選により三部の優勝が決り、四部チームは長蛇を逸しました。来年を期し更にご精進下さるよう期待します。囲碁同好会役員各位のご協力真に有難うございました。

●自治学級 二月十四日(日) 「宮津市政と地域づくり」をテーマに、中西・山下両市議会議員をお招きし、自治学級が開講されました。

第四次宮津市総合計画を中心とした活性化対策、高齢者福祉対策、主要建設事業の構想、進捗状況等、広範にわたり講話を拝聴し、参加者全員による質疑・提言・討論が開かれました。地域活性化対策としての企業の誘致について、人を誘う施設の建設、下水道の建設、海水浴場に放出されている雑排水について等々、貴重な意見が出ましたが今後の課題としての域にとどまりました。

自治学級での意見・提言を更に発展させる機関等が創設出来ればとの意見、地区民が一体となり団結することこそ、大切な生き残れる道だ、との意見。「私の郷里は由良です」と誰にでも、何処でも言える由良を創造するために、みんなで知

恵を出しあい、力を合せる秋だと思えます。(参加者三十五名)

●講演会  
二月二十七日(土)、由良の里センターに於て、由良婦人会との共催で、生涯学習講座の一環として、元栗田中学校長梅本政幸先生をお招きし、「昔の丹後と由良」を演題に、講演会を開催しました。  
山椒太夫物語を中心とした昔の由良、安寿姫、厨子王丸、身替地蔵の伝記、古く豊受大神と由良、大川神社にまつわるお話、籠神社と海部氏系図(国宝)のお話、天女と羽衣物語、嫁姑を中心とした丹後の民話と往事の貧しく厳しい農作業の実態など、次々と興味深いお話が続きました。

昔々私たちの身近で起きた事件、伝承を聞き、想いを昔に馳せながら、時間の経つのを感みつつ、講演会を終了しました。(参加者六十名)

# 自治学級

## —宮津市政と地域づくり—

公民館文化部幹事 岸 田 博 司

同 梶 田 益 一

自治学級を開催するねらいは何か。自治学級では何を学ぶのか。行政に対する要望を求めるのは公民館活動としてはなじまないのではないか。市制報告は自治会主催でやるべきものではないのか。或は市議会議員が個人として後援会に対して実施するものではないのか等々、公民館の役員の中でも意見が分かれたところであり、活発な意見交換もあったが、最終的に館長の意図をくみとり、公民館が主催して行なう自治学級は、生涯学習の一環として由良地区の自治意識を高揚するために継続して開催することとし、由良地区を住み

良く、暮し良くするために皆んながまず市制の現状をよく知り、問題意識をもって考え、国家百年の計に基づく由良の将来構想を画き、意見（要望ではない）を述べる場とすることとなった。したがって自治学級は市議会議員の講話を聞き市政の現状を学習するところであり、問題点の是正、改善その他の要望事項を上申する場ではなく、議員のシソバの集いでもなければ議員を糾弾する場でもないのである。自治学級の活性化と自治意識の高揚のため公民館サイドが留意すべき点は、できるだけ多くの住民に参加してもらえよう

な日時を設定し、PRする必要があると考える。参加者の範囲が各種団体の長が役員のみであるといった誤報や選挙運動の手助けであるといった誤解があるようであるが、決してそんなこととはなく誰でも自由に参加でき、門扉は広く開かれています。自治学級に参加するからといって構えることなく、一寸した時間を利用して、野良仕事からの普段着のまま気軽に参加できるような場であるべきだと考えております。

平成四年度の市政報告は両議員が講話形式で懇切丁寧に説明され市政の現状をよく理解することができ有意義な自治学級であったと考える。都合により参加できなかった人達のため、自治学級の記録（梶田益一メモ）から要旨を抜きましたので一読し、市政の現状を知り、且関心をもっていたぶきたい願いから、こゝに紙面をとり掲載する次第である。

### 開会挨拶

公民館長 小室 哲寛

自治学級は、自治意識を高めるための講座・学習の場であり、生涯学習の一環として取り組まれているものである。

私たちの新しい発想・考え方で由良地区を良くしていきたいという場でもある。第四次総合計画に基づき地元選出の議員さんから市政の動きについて発表していただき、リゾート開発・観光・地域振興等色々の面から話を聞きながらご発言をいただき、由良地区を良くしていくという観点から発想・構想・意見を述べていただき、これを基に公民館活動の取組みとして今後の話し合い活動の発展につながるように進めていきたい。

### 市政報告要旨

市会議員 山下伊左衛門氏

今当面している市政の動きについて報告させていただきます。

宮津市が取り組んでいる事業を中心に話を進めたい。

国の政治は、佐川問題、米の輸入自由化問題、自衛隊海外派遣に係る憲法改正論議と色々の問題が提起されているが、我々の身近な市政の問題について、二十一世紀を目前に控えた第四次総合計画の実現について話していきたい。

市は平成四年度機構改革を行い大幅な人事異動を実施し計画実施の体制を整えた。

基本方針として、交通網の整備拡充、生活環境の整備、市民の健康と生活を守る社会の実現、観光拠点づくり・地域特産品の育成等地域振興の四点の基本方針に基づき市政の展開が図られた。

#### ▼交通網の整備拡充について

○道路・鉄道網・近畿自動車道舞鶴線が整備され舞鶴西から東舞鶴へ更に敦賀まで延長される予定である。京都縦貫自動車道が完成すると京都から宮津まで

一時間二十分程度で結ばれる。

丹波町から綾部間までが事業化が決定した。亀岡から京都間は完成しているが、現在、亀岡から丹波町まで工事が着手されているので、不確定であるが平成十二年頃には完成するものと期待される。

○宮津市民体育館から先の杉末から須津へ抜けるバイパス道路の整備は平成七年度に完成予定でありましたが、おそらく六年度中には供用開始となり夏期期間の奈良海岸までの交通渋滞が解消されるであろう。

○京都縦貫自動車道の出入口が上宮津へ入るが、市内へのアクセス道路が二本は必要であり、約一七〇件程の移転が必要であり、縦貫道が上宮津まで入るまでにアクセス道路の完成が必要となる。

○鉄道の高速化について一昨年より運動を展開し知事のご尽力によりようやく国の方針が決定されJR山陰線は園部～福知山

間、宮福線の福知山～大江～天橋立間の電化計画が具体的になってきた。京都府や宮津市も鉄道整備基金の創設がされる等これによって具体的に計画が動いて行くと思う。

○ヘリ・コミュニターのヘリポートの設置問題について北部一市十町広域市町圏で一丸となって京都府に働きかけ近く設置予定地が広域圏内の何れかに決まるであろう。新関西国際空港が来年度(平成六年)に完成し、ヘリポートの設置が開港に間に合うように具体化されていくよう期待する。

#### ▼宮津市の活性化について

○丹後リゾート構想の事業化が展開され、日置と養老間に府立大規模公園が開発され面積一四〇ヘクタールが計画されている。内九〇ヘクタールを京都府が開発、残り五〇ヘクタールを民間資本を導入して開発する計画。現在地元では、用地買収作業が進められて、計画の具体化が徐々

に進展している。

○地域活性化のもう一つとして、宮津湾埋立地開発計画地に阪急電鉄株式会社が進出し、丹後マーイ丹後バザールという名称で情報物産販売・飲食・専門店、多目的ホール・百米展望塔の建設という事業内容の開発基本計画が宮津市と協定された。

○京都縦貫道に係る約一七〇件の移転に絡んだ商店街の近代化の事業が進められている阪急の丹後マーイが平成七年に完成を目ざすことにより、商店街との活性化と共栄のため整合性が求められている。埋立地と運動して島崎公園に公衆便所、ゲートボール場二面等宮津市の観光の拠点として整備される。

○栗田半島の田井に大和ハウスが建設している宮津ロイヤルホテル(収容人員八五〇人)は平成六年四月頃を目途にオープンする予定である。

○若者が定着出来るような企業誘致現在二ヶ所が予定されてい

る。須津工業団地は今年後半か

らの建設が期待される。栗田の  
獅子谷の工業団地の造成計画が  
予定されており、現在具体化さ

れているのは二ヶ所であり、宮  
津市としては遅ればせながら具  
体的な企業・工場誘致計画の取  
組みが進展しようとしている。

▼福祉の問題について

○六十五歳以上の高齢者が十人  
中二・二人であり、高齢者対策・  
福祉対策が今非常に急がれる。

○府立与謝の海病院の総合病院  
化による改築の一部が今年完成  
し、更に来年度も改築整備が図  
られる。市内の開業医の開業が  
一医院予定されているが、身近  
な開業医の問題も大事な問題で  
あり、市としても色々な問題で  
協力をしていかなければならな  
い。

○平成五年度中には養老地区で  
複合施設の北部福祉センター  
(デイサービス)が完成するこ  
とになり、由良地区でも福祉施  
設の早期設置について運動すべ

きである。

○長寿社会の到来に対応すべく、  
健康長寿の町づくり基本計画の  
具体化が期待される。

▼良い環境の基に市民生活をと  
いうことで、最新の清掃工場の  
完成、更には宮津湾流域下水道  
の整備による一部供用開始が今  
年から宮津地区で始まることに

伴う下水道受益者負担金の問題に  
ついて一定の方向が決定された。  
▼商業振興について

商業地域振興として、今年度  
新浜通がカラー舗装され、更に  
魚屋通も今年度中にはカラー舗  
装が完成し、奇麗な街路の町並  
みよる商業振興が図られる。

○京街道、本町についても、ア  
クセス道路の完成等により今後  
十年後には今とは異った、全く  
新しいイメージの商店街に生ま  
れ変わると思われる。

○伝統文化、郷土芸能にたいす  
る保存育成にたいする補助事業  
も展開されている。  
▼ふるさと創成事業交付金とし

て一億円国から交付されている

が、何に使われているのか問い  
合わせ質問があるが、全国的に  
は温泉掘削にかけた市町村が多  
くあるが、宮津市としては地道

な事業に取り組んでいる。  
優 躍 創 の三のテー  
マを柱にしてふるさと創成事業  
の取組み

一億円の予算配分として  
優 ……人にやさしく、千五百  
万円  
躍 ……若者がおどるような町  
千五百万円  
創 ……青少年等人材の育成七  
千万円

▼宮津市のシンボルとなるよう  
なモニユメントを設置(製作)  
する必要がありということ、  
宮津湾埋立地周辺の中心地に今  
年度か来年度に建設設置される  
予定である。

地区事業報告(地域づくり)  
市議員自治連合会長 中西孫兵衛氏

▼京都府の事業として昨年から

国道舗装改良工事が脇から港地  
区まで計画されているが、全体

計画の三分の一程度の進捗状況  
で、現在由良の里センター地先  
で改良工事が止まっている。改

良工事が完成した側溝に蓋を付  
けなければならぬことと排水  
溝がない場所に側溝を付けると  
いうことで、工事予算が膨らみ

現在の所で改良工事が止まって  
いるが早期改良を府に要望して  
いきたい。

▼圃場整備が完成し、下石浦か  
ら浜野路地区鉄道踏切間は市道  
でありまた通学路であるので市  
(土木課)へ舗装を要望し完成  
したが、踏切から浜野路地区墓  
地までの二百米は農道というこ  
とで農林課へ要望し舗装が完成  
した。由良の里センター入り口  
の市道は生け垣を取り払い道を  
広げアスファルト舗装に改良さ  
れた。

▼由良海岸の整備―人工リーフ  
(海底礁)の建設―京都府が昭  
和五十一年(一九七六年)から

十年かかりで海岸から百五十米沖合に長さ百二十米七基の離岸堤を建設し砂浜の流砂を防いできたが、海岸美がそこなわれるということ、離岸堤より機能的にも優れ、景観をそこなわない沈下式の人工リーフ(海底礁)に切り替えられる。既存の離岸堤の沖五十米の所に四基のリーフが新設される。リーフの大きさは、一基が長さ二百米、幅六十米、リーフの最上部が海面下二米に沈むものとなる。すでに、平成二年から一部工事に入っており、総工費約六億円、順次四基のリーフ建設が進められ、約二十年かかりで離岸堤がすべて人工リーフに切り替えられる。

人工リーフの一基でも海面上に出してもらえたら、海水浴客の甲ら干しの場として活用できれば客の入り込みにもつながると思うが、建設省は危険防止上なかなか計画変更をすることは困難であるが、由良地区としても要望実現に向けて運動を進めていきたい。

▼脇の公園の海岸に降りる階段通路が波に洗われ観光客等が降りることが出来なかった。この場所は漁港地域となっているため農林省と建設省の協議調整に時間がかかったが改修された。

▼脇地区の海岸は府の公園となっているが、設置されている公衆便所が老朽化したので改築されることになり、約四千万円の予算でトイレ、脱衣場の整備がされる。

元官舎跡地はJ.Rの財産であり、整備についてJ.Rが許可しないので、当初計画より整備面積が狭くなったが近々整備が完了する。

▼下石浦の岸田六郎氏が公共施設用地にと山林(面積二町五反)を宮津市に寄贈された場所(仮称もみじとみかんの里)整備費は二億一千万円をかけて整備されているが、由良地区民の憩いの場として、市内の子供会、老人会等の憩いの場として、或いは福祉施設の関連用地として有効に活用が期待できる。今年四月上旬にオープンされる。

▼農業問題・農業振興計画について前回の農用地の見直しの時は、鉄道から海側は農用地から除外し、国道から由良川側は農用地として残すこととなっていたが、圃場整備のとき由良川側の一部を農用地から除外した。今回三回目の見直しが行われ、圃場整備が行われていない田畑

は、六割近くが休耕しているし、荒れている所は農用地から除外する方が土地の有効活用が図られるという意見が多く、下石浦地区は現在すべて農用地から除外されている。農用地の適用をはずすことによって将来的にも農地の有効活用が図れるということ、由良地区は脇の一部と圃場整備地域を除いた所は農用地の適用をはずす事に決定された。

▼栗田の田井・獅子・矢原地区はヨットハーバー・青少年海洋施設・ロイヤルホテル・下水道終末処理施設等の設置で相当の開発発展が図られているが、由良地区民も一致団結して地区発展のため努力していかなければならない。

話し合い(意見交換)

Q 農用地の見直しの件について——農用地から除外された所は災害が発生し被害を受けた場合に復旧工事等の援助が



受けられないのではないか。

A(中西議員) 水害等のとき農地(土地)が流失した場合どうなるかという質問であるが、大規模な災害の時は市として検討するし、農林サイドからも検討されるし、また建設省からも検討されるが、原則としては、農業災害の援助はないと思う。

Q 百万円以上の災害では援助があったが、百万円以下では市の単費の援助もなかった中で、川がある場所は農用地の適用地として残す方がいいと思う。

Q 宮津市全体の活性化・振興問題の話は山下議員の話して分かったが、由良地区の活性化の問題については、地域の人が何かをやるうという意欲や、地区の色々の人からの活性化の意見がでてこない。宮福線の電氣化が実現したり、宮津線の由良川鉄橋が無くなれば、由良地区は袋小路とな

る。栗田では海洋つり場が、岩滝町では温泉施設付のクワハウスの実現があり、由良地区でも何か方策を立てて実現していかないと、田畑やミカン畑は荒れていき大変危惧を感じる。

A(中西議員) 個人的な意見や提言では実現することは難しいので、公民館等を中心として、自治会、婦人会、議員等が関わりながら色々話を纏める中で実現が図っていいけると思う。

Q 府立与謝の海病院の総合病院化やその近くのクワハウスの実現があり、二〇〇七年には高齢化社会がピークになる。由良地区からは現在舞鶴の共済病院国立病院に行く人ばかりであり、府立与謝の海病院へいくには大変不便であり、高齢者が一人でも通院できるような市の循環バスの実現が図れないか。

Q 個人開業医の必要性を感じ

ている。開業医院での個人々々の医療相談により薬の飲み過ぎの防止や一人一人に対する生活指導や啓発によりみずから自分の病気を治す予防医療相談が出来るような制度を市で取り組んでもらえないか。

Q 宮津湾流域下水道のようなものの実現は近年中には困難である。生活に余裕のある人は生活排水・し尿を処理して流すことができる合併処理槽の小規模なものであれば厚生省が補助金を出す、合併処理槽の設置には地域の人の合意が必要であり、設備費が倍以上要する。水をリサイクル利用するためにも由良地区全体が合併処理槽の設置についての取組みが出来ないものか。

Q 上石浦に森林公園ができ、名称の募集がされているが、大変良いところが出て感謝申し上げたい。由良川の方向、

現に舞鶴地区の一部で取組みがなされている。

河口、由良海岸の方向の景色が色々変化に富み大変美しく非常に良いところが出てきたと思う。この場所で健康啓発事業の展開ができればいいと思う。活用する方法としては地域の体の健康づくりの場として、由良地区全体の取組みができることを願っている。

Q 自治学級に参加して市会議員の話等非常に勉強になったが、市長を囲む話合いの場を作ってもらったら人の参加ももっと多くなると思うので、公民館として考えてほしい。

Q 人工リーフ(海底礁)の建設は、現在遠浅で海岸が活かされているがその影響で砂浜が無くなってしまわないか心配である。

A(山下議員) 与謝の海病院が産婦人科、耳鼻咽喉科等が加わり総合病院化され舞鶴に多くの総合病院があり、共産党議員団から宮津市内にも総合病院の設置要求があるが経営

的な面から困難である。開業医の問題については、開業医は個人事業であり、市民の健康管理を考えた場合、高齢者が利用できる開業医の開業支援を市が協力している。意見のような予防医療相談事業の実現は今後の問題であり、市でも保健センターで健康相談業務を実施している。

○広域下水道が敷設される所は、宮津湾に面した地域であり、宮津湾に面していない由良地区は区域から外れる。区域外の日置は府立大規模公園の施設を含めた処理施設の整備が考えられ重点地区である。次に、由良地区についても下水道処理施設整備を市に申し上げている。由良区民の熱意によって下水道問題を地区全体の施設として考え厚生省、農林省等の補助事業を活用し市として計画を作っていくながら由良地区全体の問題として考えていかなければならない。実

施するにしても由良地区活性化の問題として考えていかなければ実現が難しい。小規模でも住宅の建設をして人口を増やすにも、水の問題、下水道の課題解決が必要である。

企業誘致の問題もバブルがはじけて不況の中で大変厳しい問題である。由良地区の自然環境を守り、由良川河口の魅力、由良岳、由良海岸の美しい景色を生かした住宅地開発を考え、地区の人口の増加を図り、商業を繁栄させる事によって由良地区の活性化を図るべきではないか。公的保養施設を誘致し、公園にも福祉施設とデイサービスの施設やトレーニング施設等の健康を保持する施設の誘致が考えられる。施設誘致をするにしても、まず水道、下水道の整備完備が必要であり住み良い環境の由良づくりをしなればならない。

A(中西議員) 公園の活用につ

いては、色々な人たちが利用できるよう、公園まで行く方法等、由良地区の人皆が考えていかなければならない。

○公民館活動(行事)に集まりがわるいという問題は参加してもらえない方法を検討する必要があると思う。市長が出席したら多く参加するという意見があるが、要請すれば出席してもらえらると思う。

○海岸の人工リーフによる砂の流失の問題は、専門家が研究した方法であるが、今の状態でも離岸堤に砂が集まっているのが現状である。両脇が塞がらないようにして、砂の流失を無くするようにするのが目的であり、現在でも離岸堤に砂が付いているので、五十米沖に出して長さを二百米のものにし、リーフの最上部が海面下二米の水深であれば大きな波が殺されるので波は問題がないと思う。波の水流が現在より緩やかになるので、

砂の流れが少なくなると思う。○下水道の問題は、合併処理槽をグループで整備するという方向でなく、地区全体の問題として整備していくことが考えられている。下水道整備は経費負担が大きく、個人負担の工事費は多い人で二〜三百万円、少ない人で三十万円の負担が必要である。由良は観光地であり、生活環境は他の地域よりいいほうであるが、市に下水道整備の問題は要望していききたい。

Q 会合・行事に参加者の集まりがわるいと感じるが、特に、若い人の参加が少ない。若い人が由良を背負っていかねればならないのに、青年、熟年者の参加が少ない。郷友会の会合に参加したが若い人もちらほら参加していたし、参考になることもあった。由良の故郷を守り、組織づくりをすることが、地域の活性化につながると思う。政治離れ・

行政離れの時代に、どうしたら人が集まるかを考えていくことが地域づくりにつながっていくと思う。

**A(司会者)** イスが多く空いているので残念である。若い人にも参加してもらえよう。アピールしていききたい。生涯学習として自治学級に連動していくのが趣旨であるが、もっと多くの人が参加してもらえよう。アピール・方策を考えていかなければならない。ご指摘の問題は大きな問題であり、どの地区の公民館でも悩みを抱えている。

**Q** 自治学級は宮津市の行政を勉強するには唯一の機会と思うが、公民館活動の参加は、婦人会の役員であるということだけで出席しているという状態である。若い人も色々な家事で忙しいと思いい、役員だけへの出席の働きかけに終わっている。役員を経験していく中で、役員という義務感だけ

で出席したが、勉強させてもらっているのだという考えで出席できるように、意識を変えていかなければならないと思う。

**Q** 景勝地の奈具海岸の松が一本一本枯れていくのは大変寂しく思う。

**Q** 下水の排水が海岸へ直接流れているのを見ると観光客に与える感じが大変わるいので改善を考えていかなければならないと思う。

**A(中西議員)** 松くい虫は全国的に発生している問題であり、切ってしまうと松が無くなってしまうという心配があるが、被害木を残していくと全滅してしまう。被害木は土木事務所が府の経費で伐採している。植栽も必要になると思う。松くい虫の妨除は枯れる前に処分しないと妨除にはならない。消毒も効果があると思うが根本的な駆除対策が困難である。

○下水が海水浴場へ流れている

問題については、新築の場合は海の方へ流すことは、自治会で指導禁止している。二十年程前から流している下水については慣行でそのまま流している。脇一本、宮本一本、浜野路二本が流れている。浜茶屋には自治会から汚水等の処理について注意指導している。各家庭でも婦人会の会合で話し合いをしてもらい、汚物は流さないような協力方法について話し合いを持っていただきたい。

**A(司会者)** 海岸に流れている汚水は何とかならないものかと考えている。浜野路でも水路の勾配(傾斜)がどうしても取れなかったので二ヶ所海へ流しているが、直接、人に見えないように工夫して流している。

閉会のあいさつ(公民館長)  
本日ご出席の皆さんには、公民館自治学級に非常にご熱心に

お取り組みいただき大変嬉しく存じます。特に中西・山下両市議員さんには、宮津市の状況や地区の当面する問題などを、ご懇切にご指導いただき厚くお礼申し上げます。

これを機に私達の郷土を、より発展させ、町の活性化の方策を皆で考えて貰いたいと願うものであります。これにて自治学級を終了させていただきます。まことに有難うございました。



# 自治学級に参加して

## 一 婦人会員

早くから、婦人会の役員さんより二月十六日は自治学級が開かれますので、是非参加して下さい。欠席される方は代理を立ててほしいとの懸命の呼びかけに心が動き実は義理で出席させて頂いていただいたのが本音です。

参加してみると、由良の里センターの広い会議室には机と椅子が円型に並べてあり、中央には春のやさしい花が生けてありました。なごやかで活発な意見交換を待っているかの様に思えました。公民館長さんの開会の挨拶が始まると、少し遅れて来られた二、三人の方が席に着かれても、なお、空席が多くせっかく準備された役員様方に申し訳ない思いが致しました。そんな参加者のもとで、由良地区の市議員さんより、宮津市の市

政報告、地区事業報告等があり、意見発表や質問の場が自由に出来ました。議員さんからの答弁も解りやすく説明されました。

その中から少しふれてみたいと思います。脇と下石浦の公園の公衆トイレが何千万円、由良浜の海岸人工リーフに六億円をかけるのか、その予算の出所は国と府と市、それぞれ違うのは解ってはいるのですが、つい主婦感覚の物差しで計りそんな大金、同じ使うのならもっと身近な所で毎日住民が利用する道路の幅拡大をお願いしたいものです。特に学童の通学路となっていて小学校までの港地区の道路、両側に民家がぎっしり、両溝に溝蓋もなく軽自動車すら交差出来ません。学童は立ち止まり車は速度を落とすとはいうものの地

区民は毎日不自由に生活されているのではないかと。時折港地区を車で通るのですが、対向車が来ないかと不安です。もし火災でも起れば消防車が十分活動出来るのでしょうか心配です。由良地区の道路にはこうした所があちこちに見られます。等々住民に密着した日常の事柄がまだまだ置去りにされている様に思える事が多々あります。

宮津市の人口がここ五年間で千三百人、由良地区でも八十人程減少しているのが現状です。市の活性化、若者が定着出来

る町、高齢者対策、丹後リゾート開発等々、自分達の住む郷の未来を考えずにいられません。他人まかせでは一歩も前進しないのかもしれない。私自身もこの様な機会に意見として出すべきだったのでしようがそれ出来ず、この場を借りて意見とさせていただき、もっと多くの方々の参加で、地区に市政に大きく役立って行く意見を望みます。自治学級に参加させていたゞき、婦人の目から行政の一端をのぞかせていたゞいて有意義な一日となりました。

## 同和学習に参加して

由良小学校長 飯田和子

今回も、同和学習会に参加させもらった。これで四回目の参加になる。このように回を重ねて、ずっと学習会を開催される由良地区に、いつもながら、大

きな拍手を送っている。なぜなら、同和問題の解決は、国民的課題だと言われながら、まだまだ国民一人一人の真剣な課題になり切っていない。だから、こ

の由良の学習会は、大きな意義をもっているのである。

今回は、『麻子の場合』という映画をみせていただき、話し合いに入った。

普通の平凡な主婦としての生活を送っていた麻子が、部落差別問題に出くわす。初めは、差別だと見ぬけなかつた麻子だが、自分自身も、嫁という差別、弟だからという差別の中におり、世間という、しがらみの中で、実家へ逃げ帰るといふ話だった。映画をみた者に、いろいろと考えさせるものであった。

私達は、「世間さまに申し訳けができない。」といって、都合のよいように世間を利用しているように思える。世間を形成しているのは自分達なのに、自分で自分自身を苦しめる狭い世間になっているのではないだろうか。

話し合いの中でも、「大事なことなどは、わかっているのですが——。」とか、「私は、差

別をしていますがせん。」という方も、いらつしやった。

本当に、差別をしていないのだろうか。「世間が……。」というのかくれみので、自分自身の心の中の差別に気づかずにいるのではないだろうか。なるほど、これ迄の取り組みによって、物的な差別は解消しつつある。

しかしながら、心理的差別といわれる、心の中の思いはどうであらうか。これだけ進んだ世の中になり、二十一世紀も目の前だといふのに——。

その証拠に、結婚問題の話になると、「その時にならないと。」などと言葉をにごしてしまうのである。その時になってからでは又「世間さまが——。」で、これ迄の繰り返しになり、進歩しない。私達一人ひとりが部落差別について、もっといかりを持たなければならぬ。

次の詩は、近くに住む女性が三十年前に書いたものである。

進もう前へ

恋人よ、私はまだ話してないだが、何を話せばよいと言うのだろうか

本も読める

字も書ける

歌も歌える

私は、どこのだれとも

かわってはいない

だが私は、運命づけられし

部落の子

日毎の差別に耐え切れず

差別のない社会を恋いつつ

村と離れ

落ちつきしこの海辺に

昔 見し夢 今花咲かんと

おじや おば達は

故郷の名を秘めていた

だが、恋人よ

あなたがこの海辺にいようとは

私はまだ話してない

だがどう話せばよいというのか

私は苦しんだ。だが

口をつぐんだって

私は解放されはしない

故郷の名を誇らしげに

語れはしない

恋人よ

私は先ずあなたに告げよう

私が人権の平等を叫んでいる

部落で生まれたことを

差別のない世の中を作るために美しい故郷に花咲かせるために

この詩を読んで、今、誰もが

「もう、そんなこと気にしないでいいんだよ。部落だなんて、誰も気にしないんだよ。」

と、言えるだろうか。

「誰も、気にしないんだよ。」

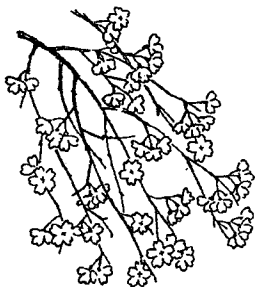
といい切れる日まで、同和学習

会は続けられなければならぬ。

次回は、一人でも多くの参加

者があることを切望する。

みんなの幸せを願って——。



## 〈生涯学習〉 昔の丹後と由良

— 梅本政幸先生のおはなし —

### 一 婦人会員

梅本先生の話術は、一種独特の語り口が常で、女形の口調にも念が入り笑いを誘いながら、

『昔の丹後と由良』を、約一時間。神代の昔話に始まって、山

椒大夫の伝説も最もらしく、その悠久の歴史は一口に語りきれない豊饒振り。有りとあらゆる文献が全てインプットされ、水しぶきを飛ばし潤れることを知らない泉そのものである。

高校生の頃読んだ森鷗外の山椒大夫を、も一度読んでみようかと耳を傾け、羽衣伝説、浦島伝説は日本各地にあるけれど、天女、乙姫の服装は韓国の女性の民族衣装チョゴリそのものではないか、太平洋側にあるそうした伝説は眉唾物だぞなどと疑っ

たりと、聴き入る側も結構楽しく忙しい。出来るなら話をひとつふたつに絞り、深くじっくりと生涯学習会の授業形式にも望みたいところです。

『由良の戸を 渡る舟人 舵を絶え 行方も知らぬ 恋の道かな』と詠んだ曾根好忠を、「変人だったようです」に終らせず、もしじっくりと引っ張って欲しかったと残念。

由良ヶ岳の頂上を頭に例え、両手を広げ栗田湾をかかえ込むような地形は、右手は由良川の流れを誘い、胸のあたりに住人をかばい寄せ、左手の先は、黒崎の岬となって荒波をチッ！チッ！と払いのける有様、海と山と河が見事に調和し希有な

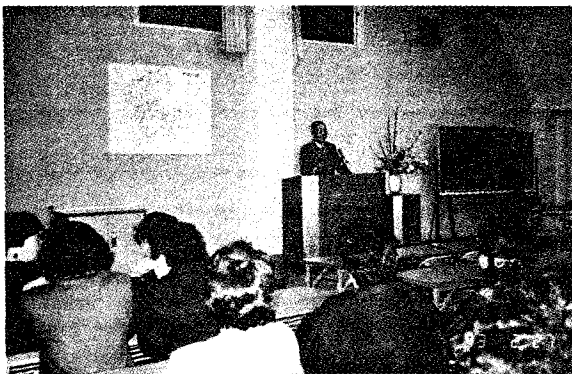
る景観。その丹後の国の下級役人であった曾根好忠は、この地を愛し由良川の河口の様子も熟知していたに違いない。

水面の穏やかなるその下で、うづ巻く激流に舵を取られた不運な舟人を数々知り尽してこそその歌、そこに成就しない自分自身の恋を賭けたとみる面白さ。

その頃、歌詠みびとは、上流階級の中で慰みとして流行ったものと知る。下級役人曾根好忠が恋心を抱いた女性が高貴の人であり、恋うたを詠む彼を偏屈人扱いたのではないか。美男だったのだろうか、野心家だったのだろうか、昔に想いを馳せて楽しい一時間であった。

生涯学習の場がこのように設けられ公民館事業の幅の広さを考えながらも、区民の関心度は余りにも低いのが現状である。私も含めて、公民館の建物を身近に利用することは案外多いのに、さて公民館の役割を問われたら返答も出来ない。果敢

に頑張っておられる役員の中でさえその関心度はまばらである。情報社会にたと振りまわされ足もとにある自分自身を育むチャンスも氣付かず逃し、地域に添う任人でありたいと願いながらも『忙しい！』のだろう。無関心が常識となっている。『生涯学習の場』を利用することで、体力と気力に鞭打ち、ボケ防止に欠かせないものだろうか。私の『老い』も眼の前にある。



# 「家庭○○○の日」

由良幼小育友会 中 村 な を

★ いきいきサタデー行事 ★

## 由良の民話などを聞いて

小 松 香 織

第二土曜日の学校休日には、市教委、地区公民館の方々にお世話になり、子供達も、楽しい時を過ごしているようです。今年、平成教育元年といわれますように、子供の人間形成の場が、学校教育中心だったのを、家庭や地域でも、自立(律)、心、道徳心を、生活体験、社会体験を通して、育てていこうという事で、五日制になったといわれます。

育友会でも「家庭○○○の日」をつくり、家族とのふれあいをもう一度考えなおし、深めようという事で、たとえば、今日は掃除の日、又、○曜日はみんな揃って食事をする。当り前のようですが、よく考えてみると——という事があります。それらを実現していく中で、自然に、

ふれあいや、会話が生まれてくるのではないのでしょうか。学校でも、学級行事というのがあります。団体の中の我が子を確かめる場とし、又、羨や、生活リズムなどといった終りのない線に向って、話し合っています。

今よく言われるのは、高度成長に伴って、子育てに手ぬきはないでしょうか、物を与える事で、ふれあいが出来ていると、感じがいをしていますか、という事です。親も我が子の成長に学び、心豊かで、思いやりのある子供に育ってほしい、願ひ、話しはつきません。お年寄りの参観日、ゲートボールなどのふれあいの、心に残ります。



十二月十二日の第二土曜日に里センターで由良の民話を聞いたりお茶を飲ませて頂いたりしました。中西なつえさんになつえさんの小さいころの写真を見せてもらったり、魚をとりに行く人が無事にもどってこれるようにおねがいしてとりに行ったという、その神社のことや、その写真を見せてもらったりしました。いま任んでいる所は、昔は海の中だったと聞いて、すごくびっくりしました。昔、海だった所がよく今の様に住めるようになったなあと、感心してしまいました。

その、おかえしをしようとおしようさんにお茶のたて方をおしえてもらってのませてあげるとうお話でした。すごくいいお話でした。それから、お茶のときのおじぎのし方などおしえて頂きました。もうそのころには足がしびれていました。

そして、ならんでおまんじゅうをはじめに食べてお茶を飲みました。ちよつとにかかったです。ふつうの、わたしたちが飲んでいるようなお茶じゃなくがい、まっ茶の色でした。入れ物もおちゃわんのような入れものでした。由良の民話や、お茶を飲ませてもらえたりして、由良のことや、お茶のことがわかり勉強になりました。聞きに行つてよかったです。

## ★いきいきサタデー行事★

## ソフトバレーボールに参加して

瀬田 考司

ぼくは、ソフトバレーボールの会場である体育館にむかいました。何人行つとるやろ、と思つていました。体育館前まで行くと、自転車がたくさんおいてあつて、あつみんな来ているんだなと思つて、中に入りました。そしてたらボールで遊んでいて、おじさんやおばさんたちの準備が終わるまで少し遊んでいました。準備が終わると、話を聞いたりしました。話をする先生は、前におられた伊藤正先生で、びっくりしました。そして三つの組に分かれて、円になって、パスの練習をしました。ぼくたちのグループは、十四回が、最高で、楽しくやっていました。

「ああ、おいしい。」

「わあ、あ」

「それっ」

など言つてやっていました。そうやっているうちに、もう一セットが来て、一回あつまりました。そして、四つの組に分かれました。そして、二カ所でやりました。始める前に、ひろくんと、てっちゃんが来て、ぼくたちのチームに、ひろくんがきました。

始まりました。サーブをうつと、うまくはねかせられず、落ちたり、ネットにひっかかりたりしました。だいたい二セット目には勝つけど、全体的に負けてしまいました。ぼくは、負けても、ボールで遊んでいました。そして、少し話を聞きました。その時、今度の第二土曜日もなかやると言っていたので、できたら、参加したいです。この日は、おもしろかったです。

## ★いきいきサタデー行事★

## 竹とんぼ作りに参加して

土岐 大輔

三月十三日は七回目の学校週五日制実施日でした。ぼくは何をしようかなと考えていました。すると老友会の方が竹とんぼ作りをしてくださいました。おもしろそうだなと思ひ、友達をさそつて参加することにしました。当日をまだかまだかと待っていました。

当日、教えてもらう場所に行つてみると、けっこう人が来ていました。

教えてくださるおじさんのお話を聞いた後、中に入って、作り始めました。

ぼくは一度学級行事で作ったので作り方は知っていましたが下手だったので、切りすぎたり、じくの太さが細すぎたりして、上手にできませんでした。何回もやりなおしました。

「シャア、シャア。」

よいしいぞと思つてそのまま作っていました。やつとできた第一号。急いで外に飛ばしに行きました。すぐ下に落ちました。何度やつても落ちました。だから、回転する方向を変えて飛ばしました。するとふらふらとしました。少し飛びました。次は、羽を少しづつつけつてうすくしました。もう少しというところで、

「バリッ。」

けずりすぎてしまいました。ぼくはとてむくやしかったです。完成品は出来なかつたけれど、よいけいけんになったと思ひます。老友会のおじさん、どうもありがとうございました。



## 赤き夕日

玉垣 まき

苦しみも秘めて穏やかに出征す夫の姿に涙さえ出せず

敗戦後復員おそきを待ち居つつ逝きし舅に夫の死伏せり

夫果てしシベリヤの地見たけれど八十越ゆおれば願ひ虚しき

おそかりし綬戒に上り思うなり心し余生の日々を生きんと

孫よりのアレンジの花のプレゼント敬老の日に心温む

車窓に見る赤き夕日が刻々と呑まるる如く山に入りぬ

写さるる曾孫がびたりと我が側に寄りそう仕草いともかわいし

過不足もなき日々なれど独り居に老いゆくことのおぼつかなしも

はすかいに霰降り来ぬ近ずかん春待つ思いあと幾度ぞ

うた詠みて足らう身なりと思いつつ亡き子を恋いて心くする

## 健康いろはカルタ 23

四方 寿朗

も 持ちつ持たれつ世のならい  
自分の病気の世話はして欲しいが、他人の世話をするのは御免というのが今の世の中。三Kなどと言つて看護婦さん不足のため、折角の空ベットも利用出来ない病院が多いと聞く。実にもったいない話だ。高齢化社会を迎えて、お互いに自分の出来る事を皆んなで出し合つて、何とか楽しく健康で生きて行きたいものだ。

世 世界情勢みるゆとり

「朝日に映ゆる由良の嶺、万波はるけき日本海……」大垣憲太郎先生作の由良小学校々歌である。私は暇をみてよく浜を散歩する。四季折々大自然の営みの中に居て、身も心も洗われる思いがする。私の魂を、時には激しくゆさぶり、時にはやさし

く静めてくれる。世界のあちこちには、今の我々には想像も出来ないような飢や戦争で苦しんでいる人が多い。日々感謝の気持ちを忘れず、小さい事にクヨせず、輝く太陽のように明るく、果しない海のように大きな心で毎日を過したいものだ。

す 好きなお酒もほどほどに  
適量なら血の巡りもよくなり、嫌な事も忘れてストレスも解消、昔から百薬の長と言われるお酒も、度を過ぎすと毒になる。

般に日本酒なら一日二合まで。  
週一回休肝日を置くのが上手な飲み方。太く短くか、適量を長く飲むかは個人の自由だが、本人も廻りの人も共に愉快になるお酒であつてほしい。同じ一生、此の世の楽しみは、一つでも多く味わつて終りたいものだ。

## 「支え合うやさしさ」を

由良婦人会 大石 陽子

今年一年間の婦人会活動を振り返ってみますと、①由良地区での文化祭や敬老会への参加 ②宮津地区でのスポーツフェスティバル、農業祭、バレエボール大会等への参加 ③府地区での府スポーツフェスティバル、あけぼのフェスティバルへの参加 ④他府県への社会見学旅行や交流会 ⑤姉妹都市の秦皇島への訪問等々、小さな単位から大きな地域までさまざまな活動に参加してきました。規模や地域が広く大きくなるにつれて役員だけが出席するものもありましたが、由良地区や宮津地区の行事では皆の参加で盛り上がりを見せました。

春の総会では「老人介護の仕方」を学習したのですが、天橋園で日々実践しておられる人からの指導だけに、とても良い学習が出来ました。会員の中には現在お年寄りの世話に明け暮れている人や、実家の老親を心配している人もあって、お互いに情報交換をしている姿も見かけられました。今の世の中は、誰も経験した事のないような高齢化社会の様相を示しており、婦人会でも「生涯学習」「老後の生きがい」「老人の介護」というテーマが入ってくるようになりました。現在ではマスメディアの発達により、知りたい情報はどんな方法でも得る事が出来ます。しかし、一人よりも皆でにぎやかに学習すればより多くの体験談を聞く事が出来ますし、それに勝る教材もないと思いま

す。話は変わりますが、市のスポーツフェスティバルの沢山ある種目の内、大なわとびは由良が自慢としている競技です。まわし役も含めて全員の息と足がピッタリと合った迫力ある姿は是非大勢の方に見て欲しいと思えます。若い会員でないと出来ない種目なのですが、若いだけに子供もまだ小さくて夜間の練習に出かけるのも大変です。それでもどんな様やお姑さんに子供の事をお願いして練習に励みます。家族全員の理解と応援があるから大きな行事にも由良婦人会から参加出来たのだし、由良の力を他の地域の人にも見てもらえたのだとうれしく思いました。その他の種目でも子供用の小さな三輪車を苦もなく軽やかに乗りこなして由良チームのリードに結びつける名人達も由良にいます。是非一度おじいさん、おばあさんも一緒に家族そろって応援しに来て下さい。

婦人会の会員でいる期間は子育ての間でもあります。育友会や子供会の役も子供の数だけまわってきます。現在では会員のひとつどが仕事を持っていません。職場でのつき合いがありませんし責任もあります。婦人会というものが昔のように「唯一の憩いの場」とか「唯一の情報交換の場」では無くなっている事も事実です。しかし反面、スポーツフェスティバルでみられたように皆で協力すればすごい力を持つているのも婦人会です。

仕事の事、家庭の事、子供の学校の事、地域の事等、課題が次から次へと出てきて人生で一番忙しい時期での婦人会活動ですが、無理のないよう、お互いに「支え合うやさしさ」を持續して「由良」の婦人会が育っていかねば良いと思います。



# 四部対抗バレーボール

## 大会に参加して

### 一 婦 人 会 員

去る二月七日に恒例の四部対抗のバレーボール大会が行われました。二月にしては少し暖かい日で、ときおり風雨が強くなったりして悪天候でしたが、体育館の中では、黄色い応援の声が飛び交い、活気にあふれていました。

二セット目に入ると今度は簡単に取られてしまいました。三セット目は、せり合いでジュース・ジュースの連続で、内心ひやひやのプレーの末、一点差でやっとなつてきました。

第二・第三試合は、メンバーの息もなんとか合ってきて、楽しくプレーが出来、今年も無事優勝する事が出来ました。

男子の方は、例年になく(失礼)強くなって応援団も一生懸命で、声をはりあげて声援しました。結果はおしくもセット数差で三位でしたが、いい試合ばかりで本当に残念でした。来年はぜひ優勝をと期待しています。

浜野路地区は、昨年とはメンバーがガラリと変わって、ぐっと若々しくなりました。その上胸につけるゼッケンまで作ってくれて(おぼさんの私には少してれくさいけど)ヤングパワーで頑張りました。

まず、第一試合は脇チームとです。一セット目は、順調に点数が入り楽に取れたので、これはいけると思ったのもつかの間、

浜野路地区の女子は、昨年も優勝したのですが、今年他地

区も練習をつんでおられた上に若い高校生の参加もあり、今年はずいぶん優勝は出来たものの、そんなに力の差はなかったと思います。親子で参加されている方もあり、ほほえましくて由良地区ならではの事と思いました。勝ち負けは別に、普段は顔を合わせる事のない方達と出会えて、あの人はどこの誰々だとか教えてもらったり、世間話

しをしたりして、本当に楽しい一日でした。来年も若い人達にまじって、参加をしたいと思います。終わりにになりましたが、役員の皆様、選手の皆様ごころう様でした。



## バレーボール大会に参加して

奥野彰

## 囲碁大会に参加して

熊田良雄

毎年恒例のバレーボール大会がやってきて、「よし今年は頑張るぞ」と試合前の練習までは思っていたのですが、いざ練習を始めたらずが痛い。アンダーハンドでボールを打つと跳び上がるほど手が痛い。オーバーハンドもボールが少し横にそれると足がついていかず「オットトットトット」。そして息切れで「ハーハーゼーゼー」。練習前までは、ほんの二十年前の私が頭の中で華麗に動き回るはずだったのに……。

いよいよ第一試合が始まると私の「オットトット」と「痛て」「ハーハーゼーゼー」が一部のメンバーにうつったのか、あつと言う間に試合終了。二試合目からは少し気合いが入って

何とか勝って気がついたら一部が久々の優勝になっていました。

これは毎年思う事ですが、来年こそは華麗な動きができるように少し身体を鍛えようと思うのですが、今年は「もう出たくない」の一言でした。ゲーム中二～三回ボールが回って来ると「頼むからもう回って来るな」と叫びたくなるような状態だったので、試合終了後は、スポーツの後の心地良い疲労感なんてとんでもない、まるでマラソン（ジョギング）の後の地獄の苦しみのようでした。

今年の感想を一言で言うならば自分が高校生に「おっちゃん」と言われてもおかしくない歳になったことを再確認したバレーボール大会でした。

二月七日（日）、恒例の四部対抗囲碁大会が由良の里センターで開催された。

定刻九時前には各支部を代表して選手が続々と現われ、それぞれが打倒碁敵の気概を心に秘めての登場であった。

一年振りに見る懐かしい顔や、病気が回復して元氣そうな顔等、どの顔を拝見しても今日の為に一生懸命頑張ってきた人達ばかりである。

午前九時に小室公民館長の楽しい一日を過ぎて下さいとの挨拶があり、次いで石井会長の発声で大会の開始となった。

ちなみに、この四部対抗囲碁大会は毎年二月に開催され、各支部から五名の選手が参加し、一人五局対局し各支部毎の総合

成績で、勝敗が決められる仕組みであるが、今年は優勝候補の第二部が定員に満たず四名の参加となった。このハンデが勝負にどのような影響を及ぼすか微妙な雲行である。試合開始直後は各人とも緊張の余りか口数も少なかったが、時間がたつにつれ賑やかになり舌戦が飛び交う雰囲気となった。

午前中三局、午後二局の対局予定で始まって大会は、昼迄の成績では実力伯仲となり勝負の行方は午後を持ち越された。年齢を忘れ仕事を忘れ碁に没頭している姿は、誠に神や仏の集まりを見るような風情で、人間の交際はかくありたいと願うのは私の偏見であろうか。

午後三時頃に全対局が終了し



たが三部と四部が同率となり、  
 抽選の結果第三部（浜ノ路）が  
 昨年引き続き優勝となった。今年  
 は終盤まで優勝の行方が定まら  
 ず大熱戦であったため、選手諸  
 君は大変疲れたことでしょうが、  
 この楽しい思い出を明日からの  
 生活の糧として碁の勉強に励み、  
 又、一年後に元気な姿でお逢い

しましょう。  
 最後になりましたが、今年か  
 ら憩いの家の隣りに生涯学習教  
 室が設けられ、そこで毎月第一  
 と第三の日曜日の午後一時から  
 碁の定例会および研修会を開催  
 しておりますので、お誘い合せ  
 の上おいで下さい。お待ちしております。

## 川 柳

宮津番傘川柳会

冬山の音痴こだまが帰らない

錯覚の視野で階段踏みはずす

田村 キヌエ

ジューンブライド竹の園生に夢ひらく

許そるか空はあんなに澄んでいる

大森 美智子

行間に百花を埋めた冬の章

嘘ひとつ置いてレモンが溶けていく

飯沢 鳴窓

## 郷土に於ける澤井市造話題(四)

作 中西孫兵衛(先々代)

由良の歴史をさぐる会 四方 寿 朗

来意を問へば曰く今日の問題否決となりたる我々の遺憾に耐へざる所明朝沢井さんは出立さるゝ由私等は今より出立して京都に出て請負の件を出願する決心なれば御苦勞ながら君も御同行下され貴名義を借用したき為め深夜態々推参せしとの事実迷惑千万なる事を申込れたるもの哉大石氏も二十四、五歳戸主にもあらず部屋住の身他の人々は戸主とは言へど無資産なり之等の人を対手として如何でか斯る大工事を請負はるべき辞するに如何かずと百万其無謀なる事を戒しめ凡そ二時間程談論を費し私が断じて動かさる態度を見辞し去らる同志連も其夜の出立は見合せ翌朝より沢井君を訪ひ工事に

関する諸般の説明を聞き更に進んで同君を総大将に推載せんとの要求には沢井君も困ったとの事其翌朝彼等は出立府廳に出でたる処昨日入札済になりたりとの事にて何等得る処とてなかりしも其突飛なるには課長も呆れ懇々説諭せられたとの事然るに松本氏は尚執念深く当所海岸第一の難工場を下請着手して中途にて挫折して退き大なる損耗を来し其跡を大石氏引請け漸く成功を告げたり是は明治十九年も冬にならんとする時にである其後も又小部分の事を下請して活動を試めたが損得果して如何なりしが不明なれども引続き工事に關係して一、二ヶ年を経過す是ぞ大石福蔵氏が土本請負事

業の仲間に入りし動議と知らる。斯くて大石氏の近親たる中西和右エ門に家政改革の件生じ其整理の為親類集り福蔵氏も亦父の代理として立合ひ右整理資金の一部親類の評議に依り父大石才治郎氏に保管を托する事となり夜中退散の砌大石良直氏才治郎方へ持参すべく福蔵氏之同行既に良直氏宅へ入る小路に達し之を父才治郎に渡せと申聞け福蔵氏も命の通父に渡せしが此金の仕舞処を熟知せる福蔵氏は父の知らぬ間に取出し之を旅費として夜中知己の友に小船にて舞鶴まで送られ静岡に在る沢井市造君を心当として逃げ行きたり是は明治二十一年であると思ふ父も跡にて小言たらたらながら其儘になり福蔵氏は市造君に随ひ主従とも親子ともいふべき問柄となり爾来氏は大なる技量家とはなれり。

因に曰く由良海岸工事落札金高は市造君の見込符合したるは村人皆其の卓見に舌を捲きたりとぞ

(七)

明治三十二年春大石福蔵氏帰国され組の方或る事情にて親父に寺へなりとも何敷させ度金あり僅に貳百円余なれども親父の話には前側の塀破損し修理の要あり之を土塀に換ふる方可ならんといひ居其見積を試み度ものなりとの事氏は曩に石材会社や其他二三の業者に見積らせたるもいづれも予算を超過し且つ氏も永く滞在を得ざるに付澤井彌蔵氏に托し去らる統て市造君より手紙来り総檀家の工事中に市造も一部の寄付を為せる名義にせよ尤も此話は村へ協議を遂げ承を得たる上着手せよとの事幸に村も其意を容れ跡修繕等は村の負担となる条件にて彌蔵氏が指揮となり同氏は取調の結果石工を大森源兵衛に左官仕事は小松

捨吉に請負はせ起工に着手したれども最初の手当金にては成功見込額の半にて殆んど其倍額を要するを以て弥藏氏も心配されたる事にて実費に要したる事はれ止むを得ざる事なり同氏は性急の質にて工事を嚴重監督され余り極端の誤より下土の乾燥せざる中に係らず早急上塗を懸けさせたるが為か幾年ならずして脱落の不体裁を演じたり何事にまれ経験なきものは往々失敗に陥るものにこそ其後先住職第十二世靈眼和尚より該工事成に付市造君へ礼状を出し度に付代筆を頼むとの事辞退すべきにもあらずと愚筆ながら代筆にて郵送せり然るに明治三十二年秋と覚ゆ亡父君の五十年忌に当り法養墓参の為市蔵帰国さるゝや私宅前に俵を寄せ飛び下るや否気色を励まし入り来り「内に居るか」と大声疾呼されしには家族のもの一驚を吃したりと当時私は公用にて舞鶴へ出て不在なりしかば其旨言へたれば「ア、

張合抜ケシタ」との一言を残し熊田方へ立寄り藤吉氏宅へ着せられた私翌日帰宅して此事を聞くとや何事の異変の起りしならんと直に藤吉氏宅へ行き面会して聞けば曰く「夕べは張合抜けであつた」と苦顔を表し居たる「全体何事が起りしぞ」と訊へば曰く「君の馬鹿を尽すに呆れたり」と抑も何が馬鹿なりしやと反問を試みしに曰く「此間の松原寺の土塀の事た当方より兼て趣意を送り置きたるにも係らず僕の処へ礼状なぞ送る馬鹿があるかそれならば寧ろ惣檀家五百軒共一々礼状を送れ」憤然として怒鳴る「フン其事かよ読めたり解つたりだ今に始めぬ君の使気陰徳には感心の外なし村の役人にもよく話さう決して心を勞し玉ふな誓て引受けた」と言へは漸くにして顔色和ぎたり私こそヨイツラノ皮ダ詰らん目に逢ひましたよ

此時には教賀の鈴木おますさんも母親と由良へ初めて来られたやうに思ふ  
法事の供養は松原寺で勤められた今回は松原寺前住職靈眠和尚へ赤地台湾製の緞子法衣地を土産に出され御寺へは赤地金欄掛ケを寄付されたのは此際なりしと覚ゆ  
大石のおふ志さんも来られて居たやうに思ふ法事の済みし後日に松原寺へ招かれ菓子子の趣向献立なりしが客は拾七人にて澤井市造君を始め鈴木おますさん同母親大石おふじさん小室老人夫婦同孫達式名沢井弥藏氏同藤吉といふ人々私は和尚に頼まれて亭主役を勤め招待係でありました

## 其二

此頃は恰も澤井君の営業も大に拡張し機運発展の序幕とも言ふべき域に達し郷里に於ても魯下の阿蒙にあらずやの感を以て公衆の視線が君が身边に集中し知らず知らず尊敬を払ふ態度となりしかば君が帰郷中を機として  
歓迎会を催ふすの議起り賛成者百五六十名(村の中流以上の人々)に達せしかば席を松原寺本堂に設け招待せり此歓迎会には橋本氏随行なりし 思ふ相伴としておますさん小室の老母澤井弥藏氏等なりしと思ふ此事を記するは故市造君の演説を紹介したい為であるが如何せん過去十二三年前の朦朧たる記憶を喚び起すにてあれば片言雙言をも洩さぬといふは不可能にて唯た大意のみ記すにんありける君はト席上の中央に起立し姿勢を正し語るらく  
茲に飛び出しましたのは五郎兵衛市で御座います子供の時から至て腕白子僧で皆さんに御迷惑を掛けた事は確かに覚えて居ます。今は少し大人になった気持がして昔の事が胸に浮ぶ毎に恥かしくなりまして何時かは御詫びをせねば良心の呵責を受けて堪えられぬ感がするのであります。



## 編集後記

◎ 今回の公民館だよりは自治学級を特集でとり上げて見ました。

従来、自治学級の記録は別冊としておりましたが、全部の方々  
にゆきわたらないため今回は公民館だよりに掲載して多くの皆さんにご一読いただき、更に関心をもつていただきたいと思います。企画しました次第であります。

この記録は公民館文化部の柘田益一、岸田博司両氏の力作によるもので、皆さんのご発言の要旨を損なわないよう注意を込めて要約したものであります。

内容として中西・山下両市議会議員の造詣の深さと地域発展を志す情熱の程をお汲み下されば幸甚に存じます。又質問される方からの当を得た郷土愛の心情からのご発言にも敬意を表すところでありませう。

公民館として主催させていただいておきます意図は、地区の

大勢の皆様、この自治学級に進んで参加いただき、先づ知り、夫々の自治意識を高め、私達みんなの問題として考え合い、ご意見や発想を発言していただき、今後の地区の発展に資したい願いからであります。

残念なことは今回の自治学級の参加者が非常に少なかったこととで、公民館としても反省しておりますが、次の機会には地区の皆さんがこの趣旨をご理解下さり奮って多数のご参加賜りますよう希っております。

◎ 飯田小学校長から同和学習に参加しての玉稿をいただき感謝しております。

公民館と婦人会の共催で第八回の同和学習を開きました。校長先生の言葉にもあります通り同和問題の早急な解決は国民的課題であるにもかかわらず、残念ながら私共の社会の中に現在もなお差別が様々な形で未解決のまま残っております。

これは私共の心の中に差別の意識が潜在しているからにはありません。

そこで公民館では研修のテーマを、①「差別とは何か」  
②「差別と私達のかかわり」  
③「差別をなくするためのとりくみ」と三段階に分けてとり組んで参りました。今回がその三回目です。

差別のない明るい地域をつくるため私達一人ひとりが、自分の心の中に潜んでいる差別の芽を自覚し、これを払拭していくための方法としては、自ら進んで学習する以外ありません。地域において開催する同和学習に皆さんの多数のご参加をお待ちいたしております。

◎ 小学生の「いきいきサタデー行事」の三題は心とむものがあります。学校週五日制の成功を祈るものであります。

(小室記)